

<p>当院は下記研究を実施しています。この研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用または提供することを望まない場合は、下記の問い合わせ先にお問合せください。</p>	
研究番号	21-4
研究課題名	食道上皮性腫瘍に対する内視鏡的切除術の成績に関する多施設共同研究
当院の研究責任者(所属)	板場壮一(消化器内科)
他の研究機関及び各施設の 研究責任者	九州大学大学院医学研究院病態制御内科学分野・荻野治栄 国立病院機構九州医療センター・光学診療部部长・原田直彦 北九州市立医療センター・消化器内科・副院長・秋穂裕唯 麻生飯塚病院・消化器内科・部長・久保川賢 福岡県済生会福岡総合病院・副院長・落合利彰 原三信病院・消化管科・部長・原口和大 福岡東医療センター・消化器内科・部長・中村和彦
研究の目的	<p>食道癌を含む、食道(上皮性)腫瘍に対する非侵襲的な治療として内視鏡的切除術が開発されました。開発当初はスネアという輪のような器具を用いて腫瘍を絞扼し電気を流して切除するEMR(endoscopic mucosal resection)が行われていました。しかし、EMRでは切除できる腫瘍の大きさに制限がありました。その後、この問題を解決する方法として高周波ナイフ(電気メス)を用いたESD(endoscopic submucosal dissection)が開発されました。この方法により、内視鏡的切除術を行うことができる病変の範囲を広げることができ、普及に至りました。</p> <p>しかし、内視鏡的切除術の治療成績に関する臨床データは十分ではありません。そのため、日常臨床で解決できていない問題が存在します。本研究で、食道腫瘍に対する内視鏡的切除術の短期・長期的な成績のデータを多施設で集積することにより、これらの問題の解決を目指していきたいと考えています。</p>
調査データの該当期間	平成13年1月1日から令和2年12月31日
実施期間	研究許可日～令和7年12月31日
研究の方法(対象となる方)	この研究を行う際は、カルテより以下の情報を取得

	<p>します。</p> <p>〔取得する情報〕</p> <p>① 患者情報(年齢、性別、身長、体重、食道癌の家族歴、最終生存確認日、経過観察中の再発の有無、経過観察中の症状の有無、経過観察中の死亡の有無、抗血小板療法有無、抗凝固療法有無、血液検査項目(血算、ビリルビン値、AST、ALT、LDH、ALP、γ-GTP、AMY、CRP、CEA、SCC)、画像所見(胸腹部単純X線、CT、MRI、内視鏡))</p> <p>② 切除に関する情報(ER施行日、ERの種類、使用デバイス、術者、切除時間、術中・術後合併症、追加治療の有無)</p> <p>③ 切除組織の病理情報(病変の部位、病変の大きさ、肉眼型、深達度、組織型、一括切除か否か、水平断端、垂直断端、潰瘍合併、リンパ管侵襲、静脈侵襲)</p> <p>研究対象者の情報については、九州大学病態制御内科学講座に郵送し、詳しい解析を行う予定です。</p>
資料/情報の他機関への提供	情報(内容:患者情報、血液検査項目、切除に関する情報、切除組織の病理情報)
個人情報の取り扱い	匿名化する(どの研究対象者の試料・情報であるかが直ちに判別できないよう、加工又は管理する) 対応表の管理方法:パスワードを設定したファイルとして管理し、外部と接続できないパソコンで厳重に取り扱う。
本研究の資金源	資金はかからない
お問い合わせ先	板場 壮一 消化器内科
備考	